



特定非営利活動法人 IKUNO
多文化ふらっと



2023 ANNUAL REPORT

特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと
年次活動報告 2023年4月1日～2024年3月31日

代表理事



森本宮仁子



榎井緑

国籍、年齢、言葉や習慣、家族のあり方も含めて、たくさんの“ちがいが”ここにはあります。「“ちがいが”たくさんあることは、豊かなことだ」と感じています。たくさんの“ちがいが”に出会うことによって、新たな自分を再発見することにもつながります。新しい価値や仕組みを未来に向けて創造するときの原動力にもなります。

私たちは、誰一人取り残されず、ともに助け合い生きていける多文化共生のまちづくりをめざしています。

団体概要

- 名称： 特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと
所在地： 〒544-0034
大阪市生野区桃谷5丁目5-37 いくのコーライズパーク A棟2階
代表理事： 森本宮仁子、榎井緑
理事： 金谷一郎、川端麗子、木村和弘、宋悟(事務局長兼任)
監事： 田中逸郎、宮本圭造
団体設立： 2019年6月30日
法人設立： 2020年10月1日
職員： 事務局スタッフ12名(非常勤職員含む)および有償・無償ボランティア登録219名

沿革・受賞歴

- 2019年 6月 任意団体として団体設立
2020年 4月 (公財)日本国際交流センター「外国ルーツ青少年未来創造事業」助成金を受託
2020年 9月 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)と協力プロジェクトを開始
2020年10月 特定非営利活動法人の認証を取得
2020年12月 御幸森まちづくり協議会との連携・協力協定の締結
2021年 4月 住友商事株式会社による社員参加型社会貢献事業「100SEED」事業の一環として伴走支援の開始(2023年3月末まで)
2021年 9月 御幸森小学校跡地活用事業に関する活用事業者募集プロポーザルの事業予定者に選定
2021年12月 大阪市生野区役所と包括連携協定を締結
2022年 4月 当法人と株式会社RETOWNとの共同事業体により「いくのコーライズパーク(いくのパーク)」の管理・運営を開始
2022年 4月 日本財団「子どもの第3の居場所事業」の助成金受託
2022年 7月 新しく多文化共生のまちづくり拠点となる施設「いくのパーク」へ事務所移転
2023年 1月 第13回 地域再生大賞「ダイバーシティ賞」受賞 ※一般社団法人大阪コリアタウンとの共同提案
2023年 4月 第17回「大阪商工信金社会貢献賞」〈地域貢献の部〉受賞
2023年 5月 多文化共生のまちづくり拠点「いくのパーク」のグランドオープン
2023年 6月 (公財)日本国際交流センター「アウトリーチ手法による外国ルーツ住民の自立支援事業」の助成金を受託

関係団体・機関など

学校・大学、公的機関・企業など80団体以上

大阪市生野区において多文化共生のまちづくり拠点の構築を通じて、誰もが暮らしやすい全国NO.1のグローバルタウンをつくる

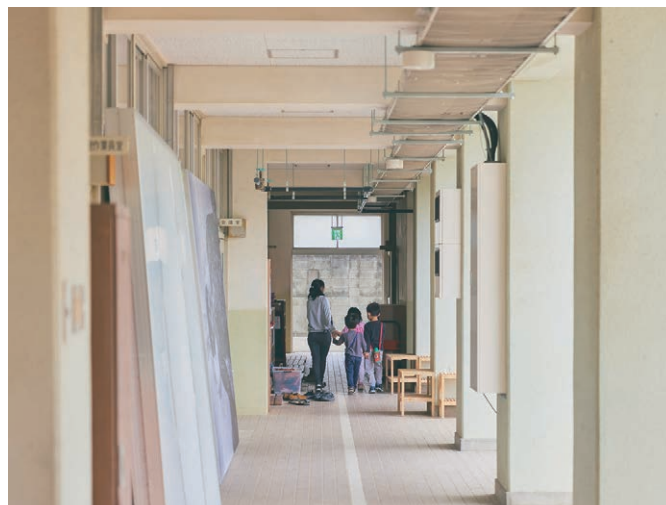
私たちの想い

大阪市生野区は区民の5人に1人以上に当たる2万8,323人(22.5%)が外国籍住民であり、その比率は全国自治体の中で最も高い(2024年3月現在)。朝鮮植民地支配の結果、大阪への渡航を余儀なくされた在日コリアンの集住地域であることに加えて、近年は約80か国の外国ルーツを持つ人々が暮らす多国籍・多文化のまちに変貌しつつあります。子どもの貧困化も進んでおり、就学援助率は全国平均の2倍以上。空き家も5軒に1軒以上あり、未来の日本の都市部の社会課題が集約する「課題先進エリア」ともいえます。こうした地域状況の中で、当法人は株式会社RETOWNと共同事業体を構成し、旧大阪市立御幸森小学校の跡地に、多文化共生のまちづくり拠点「いくのコーライブズパーク(略称：いくのパーク)」の管理運営を2022年4月からはじめ、大規模な改修工事等を経て2023年5月にグランドオープンしました。

私たちが学校跡地に多文化共生のまちづくり拠点を構築する理由は、多文化共生に関わる抽象的な「理念」のためではありません。難民申請中の仮放免で、いつ強制送還されるかもしれない不安の中で、地元の公立学校に通っていた中学生。ネパールで小中学校を卒業後に親の呼び寄せにより急きょ来日し、日本の学校に在籍することなく日本の高校受験を目指す、いわゆる「ダイレクト受験生」。教育、福祉、医療などの生活課題を抱えて立ち尽くす、日本語が不自由な外国ルーツのひとり親。一人ひとりの基本的人権の問題が、日々の地域・生活の中に横たわっています。国籍や民族などの出自の違いや家庭環境の格差が、人生の選択肢を狭めることにつながってはならないと思います。

私たちは、生野区における多文化共生の地域内循環の社会的仕組みを構築したい。「教育・子育て」「福祉・保健」「進学・就労」の分野における相談支援事業、社会参加支援事業、まちづくり事業を通じて、地域の保幼小中高校・大学・企業・NPO・行政が重層的に連携協力する市民主導の多文化共生の地域内循環の仕組みづくりを目指したい。すでに生野区においては、こうした地域のアクターたちが個々多様な形で連携協力しながら動き始めており、「希望の種」を育みつつあります。

「支援する側」と「支援される側」が固定化されずに、それぞれができる範囲でぐるぐる回っていく関係。ある主体と別の主体が取り結ぶ、その主体的な関係が、それぞれをまた自立・自走させる力に変換されていく。私たちは、小さな日々の現場の実践を丁寧に編み込んでいくことで、過度な「自己責任」の風潮や「排外主義」の大波に抗する、地域における「共生のとりで」を構築したい。誰にでも開かれている「共生」の場であり、誰もがそのままいられ、同化や排除から個人の人権を護る自由な「とりで」。この理想に向けて一歩でも近づきたい。私たちは寛容で多様性があふれる地域社会、「誰一人取り残さない」多文化共生のまちづくりに挑戦します。



国籍や民族などの出自の違いや家庭環境の格差が、人生の選択肢を狭めることがないよう「いくのパーク」で居場所と学習支援の二つの役割を担う活動に取り組みました。私たちが学習支援をしている子どもたちの中にも、いろいろな事情を抱えながら人一倍頑張っている子どもたちも多くいます。

学習支援

1 学習サポート教室 DO-YA

NPO 法人クロススペースとの共同運営で、中高生は原則毎週月曜日・水曜日・木曜日、小学生は水曜日、木曜日、土曜日に実施しました。中学生は教科・日本語の個別指導、小学生は宿題や遊びに取り組みました。また教室では日本語に交じって、英語や中国語、ネパール語、ベトナム語、タガログ語も響いており、事務局スタッフのほか、多くの大学生や社会人の講師、ボランティアの皆さんに支えられ実施することができました。また、オンライン型の学習サポートの開始に向けた準備を進めました。

学習サポート教室 DO-YA	2022年度	2023年度	前年比	伸び率
受講者数	59名	107名	181%	81%
のべ受講者数	1,858名	2,696名	145%	45%
実施日数	229日	210日	92%	-8%
高校進学実績	15/15名	18/18名	—	—



▲ 中高生の勉強風景



2 日本語学習サポート DO-MO

日本語指導が必要な子どもに専門性を持った講師が個別指導を行うとともに、進学相談・支援者養成にも取り組みました。また外国ルーツのダイレクト生(来日し日本の中学校に在籍しないまま高校編入学を目指す子ども)の包括的支援も実施しました。また外国につながるこども・若者への様々なプログラムを引き続き実施しました。

I 日本語学習

日本語学習サポート DO-MO	2022年度	2023年度	前年比	伸び率
受講者数	25名	23名	92%	-8%
のべ受講者数	847名	877名	104%	4%

子どものペースに合わせるってやっぱり大切で、時間をかけて関係性が出来ていくことが楽しくうれしいです。日本語の学びのサポートをしながら、実は私も子どもたちからたくさんの気づきや学びをもらっています。

日本語学習サポートのボランティアさん



II 「外国につながる子どもの日本語／学習サポーター養成講座」ベーシックの実施

回数	実施日	内容
第1回	7月 8日	外国につながる子どもの現状と課題
第2回	7月15日	自分の中のマイクロアグレッション
第3回	7月22日	外国語として日本語を見てみよう
第4回	7月29日	学校現場におけるやさしい日本語

III 「外国につながる子どもの日本語／学習サポーター養成講座」スキルアップの実施

回数	実施日	内容
第1回	11月 4日	子どもに応じた支援計画の立案
第2回	11月11日	日本語力に応じた支援方法のあり方
第3回	11月18日	発達段階に応じた支援方法のあり方
第4回	12月 2日	学校生活に関する文化の説明

IV 外国につながる若者(高校生～)の交流会「エンパシード交流会」の実施

回数	実施日	内容
第1回	8月 3日	いくの多文化クロッシングフェス参加企画検討・準備
第2回	8月31日	いくの多文化クロッシングフェス参加企画検討・準備
第3回	9月 9日	いくの多文化クロッシングフェス参加企画検討・準備
第4回	9月30日	いくの多文化クロッシングフェス参加企画検討・準備
第5回	10月14日	いくの多文化クロッシングフェス参加企画検討・準備
第6回	10月29日	フェス参加企画「世界のカップラーメン食べてみる？」実施
第7回	11月11日	交流会企画検討・準備
第8回	12月26日	「HACHA-MECHA!! HOLIDAY PARTY&交流会」実施



▲いくの多文化クロッシングフェス参加企画「世界のカップ麺食べてみる？」

V 教材開発および教材共有ネットワークの構築・管理

日本語を教える講師の皆さんが使う「日本語アセスメント教材ネットワーク」を活用したモジュール学習教材を作成するとともに、構築した教材ネットワークデータベースを運営、維持管理し、多くの講師の皆さんに活用して頂きました。

VI 外国ルーツのダイレクト受験生の同行支援

外国ルーツの子ども4名に対して多言語進路ガイダンス、大阪府教育庁、学校説明会、学校等への同行支援及び書類作成等の支援を行いました。

子ども達に、多様な体験活動を通じて「広い世界、異なる他者、未知なる自分」と出会う機会の提供をしています。子どもの主体的な参加によって、より深い学びやきづきが生まれる機会をつくることをめざして、より積極的に活動することができました。

体験活動 DO/CO	2022年度	2023年度	前年比	伸び率
実施回数	13回	14回	108%	8%

回数	実施日	内容
第1回	6月11日	マザーファーム「ひまりえん」で田植え体験
第2回～第5回	4月9日から4回	かまどベンチを作ろう
第6回	8月24日	シンキングボウル体験とネパール民族楽器の演奏
第7回	10月29日	多文化クロッシングフェス こどもカフェを運営しよう
第8回	11月19日	「古武術遊びと裸足サッカー!？」を開催
第9回	12月 7日	立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催された学園祭に参加
第10回	12月10日	クリムの森の学校へ日帰りデイキャンプ
第11回	1月20日	マオリ族と一緒に！国際運動会(近畿大学岡崎ゼミと共催)
第12回	2月10日	つくってみようふくろうの本棚
第13回	2月18日	『とっておきのフラッグをつくろう』ワークショップ
第14回	2月25日	ベトナム異文化交流会



▲「ひまりえん」田植え体験▶



◀クリムの森の学校
日帰りデイキャンプ



▼つくってみようふくろうの本棚

いくつかのパークDE
プログラミング
無料
FREE

日時：12月9日(土)
15:00-17:00
場所：いくつかのパーク 高輪2階
（豊野区民館前）
対象：プログラミングに興味がある小学生（定員10人）

僕も自由に動かしたり
しゃべらせたり
してみよう。

プログラミングは
子どもから大人まで
みんなが楽しめる
活動です。

info@kunitabunkafat.org

主催：NPO法人KUNIBUNKAFAT 多文化ふらっと
NPO法人KUNIBUNKAFAT

4 コ・ラーニングスペース

自主的に「学ぶ場」、「つながる場」、「留まる場」づくりとして、小学生向けのプログラミング教室「Pepperを動かしてみよう」を5回開催し、のべ31名の子どもたちが大人の専門家と一緒にプロジェクト型の学びを挑戦しました。

毎週金曜日の15時30分から19時まで、小学生から高校生までの子どもたちが集い、出会い、思い思いに過ごせる居場所。年齢を超えた交流を通じて、仲間づくりの場となりました。また子どもたちが調理準備、配膳、片付け等を通じて生活習慣を身につけながら、自己効力感を高める機会となりました。

子ども食堂 てんこもり	2022年度	2023年度	前年比	伸び率
実施回数	27回	47回	174%	74%
のべ参加者数	304名	1,117名	367%	267%



▲ 外遊び



▲ 調理風景



▲ ビビンバ

てんこもりは、「食事を作ってあげる」じゃないんです、大人も子どもも一緒につくって一緒に楽しくたべる。私の中で「支援する」ということが、堅苦しいものからやわらかいものになっていきました。

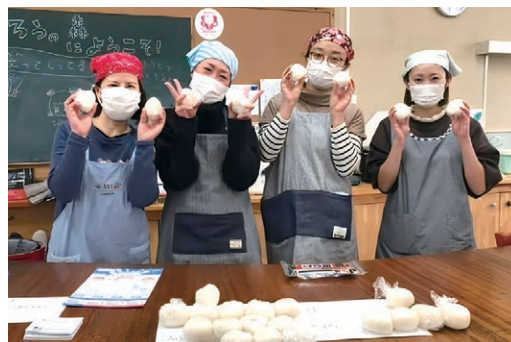
子ども食堂てんこもりのボランティアさん



おにぎりにてんこもり

土日に図書室にくる子どもたちから「お腹がすいた」という声を頻繁に聞くようになったスタッフは、月一回の「おにぎりプロジェクト」を提案し、ボランティアを募りました。

すると、子ども食堂や学習支援教室に子どもを送っているお母さんから「普段お世話になっています。月一回のおにぎりぐらいなら私にも握れる」と何人かが参加してくれました。普段の生活で精いっぱい保護者からの申し出が事務局で報告されたときに、スタッフ全員から軽い歓声と拍手が巻き起りました。



▲ 参加してくれたボランティアおにぎりパートナーさんたち

私たちは、こうした小さな日々の現場の実践を丁寧に編み込んでいくことで、地域における「共生のとりで」を構築したいと思っています。

子どもたちと関わるなかで、こんなにいろんなことを考えて生きているのかと驚いたことです。自分なりの考えがあって、その行動をしているということが活動に寄り添うたびにわかりました。

少しでも子どもたちの力になりたいと考え、毎週通い続けています。

学習サポート・子ども食堂・イベントかけもちのボランティアさん



未来に必要とされる新しい価値や社会的仕組みは、同質性の中からではなく、多様性の中から生み出されます。多様な人を育てていくことが、実はまち自体を育てていることにつながっている。私たちは寛容で多様性があふれる地域社会、「誰一人取り残さない」多文化共生のまちづくりに挑戦しています。

2023年5月3日には、多文化共生のまちづくり拠点「いくのパーク」が、ついにグランドオープンしました。

居場所

1 いくPAの農園 ～ぐるぐる～の運営

無農薬の野菜を「育てる」、農園で「学ぶ」、農園で「つながる」をコンセプトに、多様な国籍や文化を持つ人々、子どもから高齢者まで多文化・多世代の出会いと交流の場を提供しました。地域のボランティアがたくさん参加する中、雑草抜き、苗植え、収穫イベント、朝市の開催などの活動を実施することができました。

いくPAの農園 ～ぐるぐる～	2022年度	2023年度	前年比	伸び率
活動回数	37回	60回	162%	62%
ボランティア登録者数	100名	114名	114%	14%
のべ参加者数	423名	663名	157%	57%



▲看板づくり



▲農園作業



▲朝市の風景

取れた野菜は子ども食堂でも食べてますよ。私、子ども食堂のボランティアもやってるから。野菜が育ってくれるのがまずうれしい。おはよう、ありがとうって野菜に声をかけたくてここに来てしまう。そしたらいろんな人にも会えるしね。

農園ぐるぐるのボランティアさん



2 いくPAの図書室 ～ふくろうの森～の運営

「子どもにやさしい居場所」「誰もがそのままでいい」をコンセプトに、毎週火曜日・金曜日・土曜日・日曜日の週4日午前10時から17時まで図書室を地域に開放しています。地域のボランティアを中心に、事務局スタッフがサポートする形で運営しています。

住友商事(株)の社会貢献の一環として、海外駐在員の方から「ふくろうの森」に多言語の絵本等を寄贈していただく「TOMO - TOMO文庫」活動も継続することができました。

また同志社女子大学国際ボランティア部の学生企画で、絵本の読み聞かせイベントを6回開催しました。「ふくろうの森」が時間・空間を越えて多様な人が出会い・交流する場に成長しています。

いくPAの図書館 ～ふくろうの森～	2022年度	2023年度	前年比	伸び率
開催日数	82回	174回	212%	112%
利用者数	666名	4,097名	615%	515%
ボランティア登録者数	15名	36名	240%	140%
貸室利用	6件	19件	317%	217%



▲同志社女子大学の学生らよる読み聞かせ

図書館って静かなイメージだけど、ここはみんな自由。こども達が遊んでいるときも。そんなこの雰囲気大好きで、本が好きで、自分ができるとは少ないですが、みんなの居場所になればと、たのしくやっています。

図書館ふくろうの森のボランティアさん



3 多目的室等の貸室の運営

多目的室、図書室及び事務所スペースを貸室として積極的に利用していただき、「いくのパーク」の社会的意義である「つなぐ」「学ぶ」「交流する」場所としての役割を高めることができました。また収益事業の役割も担うことができました。

多目的室	2022年度	2023年度	前年比	伸び率
利用件数	97回	172回	177%	77%
利用者数	1,827名	6,177名	338%	238%

4 防災・避難所拠点の整備

「いくのパーク」は、大阪市内において地震その他による災害が発生した場合または発生する恐れがある場合、「避難所」として使用します。そのため生野区役所と協議を重ね、「いくのコラボズパーク災害時安全対策マニュアル」及び「災害時における避難所等施設の使用に関する協定」を策定しました。また外国人集住地域であることも踏まえて、今後「いくのパーク」独自に外国人住民に向けた防災活動の環境整備に務めていきます。



クロッシングフェスでは、国籍や民族、世代などの違いをまたぎ、多様な人と人、文化が出会い、交差する多様性を演出する多文化共生のイベントを開催することで、多文化共生のもつ豊かさや可能性を体感する機会となり、多文化イベントの定着化と拡充につながりました。5月「いくのパーク」のグランドオープン時に実施された第2回万国夜市は、隣接する大阪コリアタウンのプレ夜市と連携し同日開催となりました。

万国夜市は、「食」というコンテンツを通じて多様な文化や人と人が交流し、つながれる場として継続して3回開催しました。まちの魅力は「人」が作ります。万国夜市を将来飲食店の開業を目指す新たなプレーヤーの発掘や育成の場として、生野に「independent=独立した」人を増やしていきたい。自ら考え、楽しみながら動き続ける方々が、新たなお店やコンテンツを生み出すことで、昼も夜もそれぞれの楽しみ方ができるまちをめざしています。主催はIKUNO・多文化ふらっとと、株式会社RETOWNです。

基礎情報	時期	2023年5月	2023年7月	2023年10月
	日数	3日間	2日間	2日間
	特記事項	オープンイベント	—	クロッシングフェス
	夜市回数	第2回	第3回	第4回
屋台	出店者数	16・17・14店	18・18店	22・24店
	出店申込数	16・17・14店	18・18店	27・29店
	国籍数	8・10・8ヵ国	12・10ヵ国	16・15ヵ国
	初出店数	9・11・9店	7・8店	6・7店
	チャレンジ枠数	1・1・0店		1・2店
来場者数概算	合計概算数	5,880人	1,896人	2,684人
	1日目	2,044人	867人	911人
	2日目	1,876人	1,029人	1,773人
	3日目	1,960人	—	—
夜市運営人員数	合計人数	26人	23人	27人
	運営委員	2人	2人	2人
	スタッフ	11人	13人	12人
	ボランティア	13人	8人	13人



▲いくの多文化クロッシングフェス2023



▲いくの万国夜市



6 第2回 いろんなことば&いろんなえほん de いくのっこパークの実施

大阪府下の8校目となる「日本語指導が必要な帰国生徒・来日生徒入学者選抜」を実施し、現在多くの日本語指導が必要な生徒が通う大阪府立大阪わかば高校(生野区)。外国ルーツ生徒らによる地域の就学前の子どもたち等を対象にした多言語絵本の読み聞かせ活動に取り組みました。10言語の絵本を母語と日本語の交互に読んでいきます。小さなころから多文化共生の感度を育む一方で、外国ルーツ高校生のエンパワメントにつながる機会となりました。

開催日 11月25日(土)

共催 NPO法人IKUNO・多文化ふらっと／一般社団法人いくのもり／大阪わかば高校／生野区役所

参加者 約250名

場所 いくのパーク講堂、図書室、多目的室など

協賛 荒木産業(株)／生野浴場商業協同組合／大阪生野ライオンズクラブ／(株)ジャクエツ／(株)チャイルド社／(株)東邦／ひかりのくに(株)／ロート製薬(株)

協力 「いくのっ子」応援事業実行委員会／大阪市私立保育連盟生野ブロック協議会／生野区子育て支援情報提供会議



7 いくのパーク多文化コーラスLALALAの実施

第1期の多文化コーラス活動を通じて多様な形で多文化・多世代交流の機会をつくることができました(年間14回／のべ参加者数346名)。またその成果を10月のクロッシングフェスのステージで発表することで、参加者の持続的なモチベーションにつながりました。

開催日	参加者		開催日	参加者	
	こども	おとな		こども	おとな
4月22日	11名	39名	8月26日	3名	18名
5月13日	4名	20名	9月 9日	4名	20名
5月27日	7名	17名	9月23日	2名	14名
6月10日	5名	25名	10月14日	1名	12名
6月24日	3名	24名	10月28日	5名	21名
7月 8日	3名	22名	10月29日	5名	21名
7月22日	3名	19名	3月23日	4名	14名
計	36名	166名	計	24名	120名
総計	346名				



▲ステージ



▲練習風景

8 「いくのふらっとだいがく」の実施

いくのパークを舞台に、大学と地域をつなぐ「学びのキャンパス」をつくる活動。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)、大阪大学COデザインセンター等と連携協力しながら、「いくのふらっとだいがく」を継続運営することで、多様な学びと気づきの機会を提供することができました。

◆「柏木さんと土地のうたをうたう @猪飼野ちいさな音楽会」

フィールドフォークのシンガーソングライターとして熊本・水俣で水俣弁のうたや水俣病患者のたちの詩などを歌ってきた柏木敏治さんを招いた小さな音楽祭を開催しました。

- 実施日 2023年12月10日(日)
- 主催 大阪大学COデザインセンター
- 共催 いくのふらっとだいがく実行委員会
- 後援 大阪大学人文社会系オーナー大学院プログラム
- 場所 IKUNO・多文化ふらっと事務所
- 参加者 28名



◆ドキュメンタリー映画「東北記録映画三部作」

2011年3月の東日本大震災で被災した人々の語りにフォーカスした長編のドキュメンタリー映画「東北記録映画三部作」である「なみのおと」「なみのこえ 気仙沼」「なみのこえ 新町」の上映会を開催しました。

- 実施日 2024年3月17日(日)
- 主催 大阪大学未来共創センター
- 共催 いくのふらっとだいがく実行委員会
- 参加者 約50名



9 座談会・セミナー等の実施

大阪市生野区における多文化共生のまちづくりに必要な知見や情報の交換・発信のために、多様な職種やセクターの方を招いてセミナー等を実施しました。

◆座談会「まちづくりに織り込む防災と多文化共生～真備町(岡山)と生野(大阪)をつないで～」

2018年7月に、西日本豪雨が岡山県倉敷市真備町を襲い、死者51名を含む甚大な被害をもたらしました。生きづらさを抱える人々の「小さな声」を防災につなげるための知見を学びました。

- 実施日 2023年4月30日(日)
- 主催 NPO法人IKUNO・多文化ふらっと
- 場所 IKUNO・多文化ふらっと事務所
- 参加者 多田伸志さん
矢吹頭孝さん(NPO法人岡山マインド「こころ」)
石塚裕子さん(東北福祉大学教員)
渥美公秀さん(大阪大学教員)他



◆ 公開セミナー「大阪・いくの発！ 多文化共生の希望の種リレートーク」

大阪市生野区における多文化共生の地域内循環の仕組みの構築を目指して、市民・企業・行政の各セクターの方々から、普段の実践や問題意識・思いなどを語っていただきました。

開催日 2024年2月16日(土)

主催 わかばプロボノプロジェクト実行委員会
(NPO法人IKUNO・多文化ふらっと／大阪府立大阪わかば高等学校／シミポタ運営事務局)

場所 いくのパーク多目的室

参加者 107名(うちZOOMによる参加56名)

内容 ◆1部 実践報告① 大阪わかば高校の授業実践～地域連携科目「インターンシップ」
実践報告② 第2回いろんなことば&いろんなえほんdeいくのっこパーク

◆2部 リレートーク

【パネリスト】 金恵心さん(愛信保育園)／橋本真菜さん(IKUNO・多文化ふらっと)
韓文亨さん(大阪市立大池小学校)／浦野泰地さん(大阪府立大阪わかば高校)
文敬作さん(三栄金属製作所)／松本篤さん(株式会社RETOWN)

【コメント】 山野上隆史(とよなか国際交流協会)／筋原博章(生野区長)

【コーディネート】 今井貴代子(大阪大学)

多文化共生社会の実現は、人口減の日本社会が直面する課題そのものだ (筋原区長)



生野区には日本語指導が必要な子どもたちも急増している。既存の支援体制と手法だけでは対応できない。行政だけではなく、こうしたネットワークの力が必要なのは明らか。多文化共生社会は、人口減の日本社会が直面する課題そのものだ。これを乗り越えないと日本の未来はない。それを先導するのが外国籍住民の比率が最も高い生野区役所であり、やっていかざるを得ない。

生野区における多文化共生の地域内循環の仕組みづくりに (森本代表理事)



今回の取り組みを経て、今後生野区における多文化共生の地域内循環の仕組みづくりにつながっていければと思う。また多文化共生のまちづくりを生野区役所内で専任する「多文化共生課(異和共生課)」の新設を区長に提案したい。

多文化ふらっととして、次年度から外国ルーツの子ども・住民を対象にした多言語相談室を開設する。また進学・就労の事業にも取り組んでいきたい。



◆ セミナー「今こそ平和と共生を考える」& 南北コリアと日本のともだち展大阪展 in いくのパーク

南北コリアと日本のともだち展大阪展が、3月1日から1カ月間、いくのパークのギャラリーと多目的室で開催されました。南北コリアと日本、中国の子どもたちが描いた絵画や大学生間の交流を通じて東アジアの平和に寄与しようと、東京では23回目、大阪では13回目の開催でした。

- 実施日** 【絵画展】2024年3月1日(金)～3月30日(土)
【セミナー】2024年3月9日(土) 【参加者】34名(5か国の大学生・若者中心)
- 主催** 南北コリアと日本のともだち展大阪展実行委員会／(公財)大阪国際交流センター
- 後援** 大阪府教育委員会／大阪市教育委員会／(公社)日本ユネスコ協会連盟
- 協力** NPO法人IKUNO・多文化ふらっと他



10 第4回いくのプレーパークを開催

子どもたちが自由に創造力を工夫して遊びをつくりだすことができるあそび場、プレーパーク。猛暑の中、子どもたちは即席で作られた手作りプールで遊び、大喜び。四六時中、あちこちで子どもたちの歓声はいくのパーク内に響き渡りました。いくのパークは子どもたちにとって貴重な居場所となっています。

- 実施日** 2023年7月27日(木)
- 主催** NPO法人IKUNO多文化ふらっと／生野子育て社会化研究会
- 協力** 生野区子ども・子育てプラザ／生野区社会福祉協議会／飛鳥食品株式会社
- 参加者** 約200名



11 講師派遣および施設見学等の実施

京都人権文化講座(9月25日)、第VII期市民自治講座(10月22日)をはじめ、大学、高校、市民団体等の授業およびセミナー等へ講師派遣を行いました。「いくのパーク」の施設見学などを合わせると年間80団体(回数)に多文化共生および「いくのパーク」について説明をする機会を持ちました。また新聞・テレビ・雑誌などに35のメディアに取り上げられました。

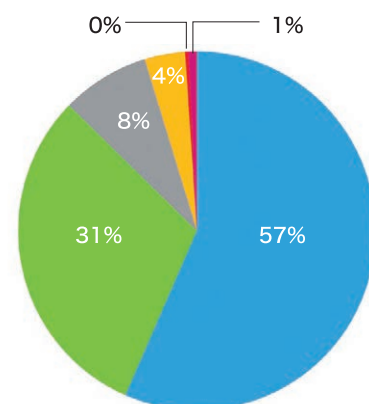
2023年度収支の概要 (2023年4月1日～2024年3月31日)

2023年度収支の概要

※当期の正味の現金収支をまとめたもので、活動計算書の方式と異なります。

収入の部

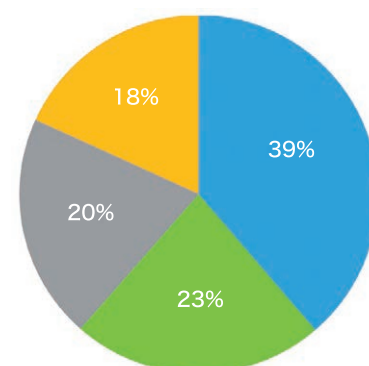
1. 受取会費	415,000
2. 受取寄附金	4,343,298
3. 受取助成金等	16,807,450
4. 事業収益	30,895,597
5. その他収益	170,376
6. 借入金	1,999,120
計	54,630,841



● 事業収益 ● 借入金
● 受取助成金等 ● その他収益
● 受取寄附金 ● 受取会費

支出の部

1. 事業費	
人件費	19,450,709
固定資産取得費用	13,405,466
その他経費	4,133,136
事業費計	36,989,311
2. 管理費	
人件費	3,353,259
地代家賃	11,985,556
その他経費	4,711,389
当期借入金返済	1,880,000
管理費計	21,930,204
計	58,919,515



● 人件費 ● 地代家賃
● 固定資産取得費用 ● その他経費
● 当期借入金返済

※ 詳細な活動計算書、貸借対象表、財産目録は、IKUNO・多文化ふらっとのWEBサイトに開示しています。合わせてご覧ください。

理事会・総会の開催

2023年		2024年	
5月16日	第1回理事会	2月10日	第4回理事会
6月25日	第1回通常総会	3月30日	第5回理事会
7月29日	第2回理事会		
9月 4日	第3回理事会		



ご支援のお願い

大阪市生野区は外国籍住民比率が全国都市部の自治体で最も高く、課題先進エリアと言えます。生野区では、家庭格差に基づく教育格差がますます広がる中で、外国ルーツの子どもの増加により、日本語学習のニーズが増えています。この地域が育んできた多文化共生の土壌を礎にし、今後日本社会が抱える社会課題に先進的に取り組んでいきます。

皆さまからの寄付金は、IKUNO・多文化ふらっとが目指す「誰一人取り残さない」多文化共生のまちづくりのために、事業の運営に役立てられます。皆さまのご支援をお願いいたします。

ご寄付

IKUNO・多文化ふらっとの活動にご賛同いただき、ご寄付いただける方は、ご自由な金額でのご寄付をお受けしております。

クレジットカードでのご寄付は右記のQRコード【クレジットカード】からお願いいたします。

銀行振込でのご寄付をお考えの方は、振込後、お手数ですが下記の多文化ふらっとのメールもしくは右記のQRコード【寄付者フォーム】より、寄付された方の <お名前> <ご住所> <連絡先> をお知らせいただければ幸いです。

● 振込先 ● 楽天銀行 第四営業支店(254) 普通
【口座番号】 7548640 【口座名】 特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと

【クレジットカード】



【寄付者フォーム】



会員制度

NPO法人IKUNO・多文化ふらっとの活動にご賛同頂ける個人または法人団体の方は、賛助会員になって活動を支えてください。右記のQRコード(会員フォーム)よりお申込みください。

【賛助会員】年会費1口 5,000円

【会員フォーム】



AMAZON 欲しいものリストから物品を寄贈

子どもたちの日々の活動に必要な物品を寄付して頂けると有難いです。右記のQRコードからAmazonのサイトへと移動します。



特定非営利活動法人 IKUNO
多文化ふらっと

〒544-0034 大阪市生野区桃谷5丁目5-37
いくのコーライズパーク A棟2階
【TEL/FAX】 06-6741-1123
【E-mail】 ikunotabunkaflat@gmail.com
【HP】 <https://www.ikunotabunkaflat.org/>

